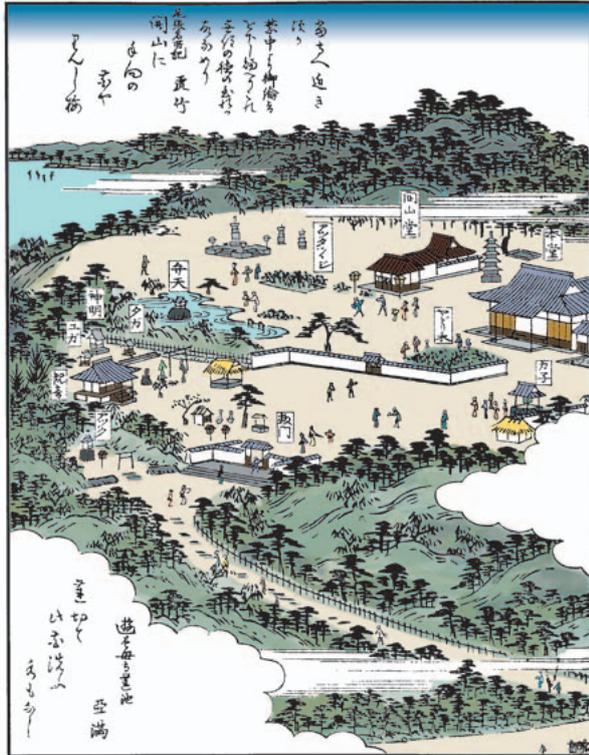


なごやのまち
今昔

尾張名所図会

長母寺

東区矢田三丁目



※現在の地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

この絵は、尾張名所図会に描かれている江戸時代の長母寺付近の様子です。長母寺は、1179（治承3）年に領主であった山田重忠その母の菩提を供うため、天台宗の亀鏡山桃尾寺と号し建立されました。その後、寺は衰えましたが1263（弘長3）年無住大円国師（無住一円）が入山し臨濟宗に改宗し、山号・寺号も靈鷲山長母寺と改められました。寺は一時、隆盛を極めましたが、時代とともに盛衰を重ね現在に至っています。

無住国師は、「沙石集」はじめ多くの書物を著しています。その中で「正應年中萬歳楽」は、仏教を説いて漫才をつくり、弟子が節をつけたことが尾張漫才の始まりといわれています。尾張漫才は、昭和32年には県の無形文化財に指定されています。

また、この寺は、建立以来矢田川の北に位置し守山村にありましたが、1767（明和4）年矢田川の洪水により河道が変わり、川の南側に位置することとなりました。守山村の飛び地とされていましたが、明治に入り矢田村、その後名古屋市に編入されています。この絵が描かれた時には、当寺は、矢田川の南に位置しています。

長母寺周辺は、緑の豊かな所で都市計画木ヶ崎公園として指定され、その区域の一部が都市緑地保全地区にも指定されています。また、寺の東の区域は、都市公園として整備され地域住民の憩いの場として利用されています。



長母寺本堂



長母寺山門



守山区から見た長母寺付近の緑

◆関連資料 ※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。
「尾張名所図会後編四」岡田啓 / 編 愛知県郷土誌刊行会 (Sc-ア)
「東区史」東区史編纂委員会 / 編 東区総合庁舎建設後援会 (2B21-73)
「名古屋史跡名勝紀要」名古屋市文化財調査保存委員会 / 著 (Sc-ナ)
「東区の歴史」東区の歴史編纂会 / 著 愛知県郷土誌刊行会 (Sc-ア)